

## 文教福祉常任委員会 意見交換会報告

去る1月28日開催の白山ろく地域のコミュニティスクールコーディネーターの皆様との意見交換会について、その概要を報告します。

当日は、白山ろく地域のコミュニティスクールコーディネーター等の皆様に出席いただき、「コーディネーターから見た地域と学校との連携について」というテーマについて、意見交換を行いました。

初めに各コーディネーターの皆様からそれぞれの地域での活動内容や課題についてお話しいただきました。

白山ろくであっても、それぞれの地区や学校の特色があり、始まったばかりの制度の中で試行錯誤しながら御尽力いただいている様子を伺うことができました。

コーディネーターの皆様からの意見の中で主なもの3点について報告いたします。

1点目、「コミュニティスクール制度」や「スクールコーディネーター」について、

「地域や、まちづくり協議会、学校などにおいても、周知が進んでおらず、地域での活動の際にも、まずは説明が必要となるなど障害となっている。」

「コーディネーターとなった際にも、コミュニティスクールやコーディネーターの役割についての知識が少ない状況でスタートしたため、戸惑いがあった。」

との御意見がありました。

委員からは、他市町では、コミュニティスクール制度が軌道に乗るまで数年かかったケースを踏まえ、地域や学校に制度が浸透するには、時間がかかるのだろうとの話から、地域コミュニティ組織と学校長との連携が深まると活動が円滑になるとの意見がありました。

2点目に、「学校とコーディネーターとの

関係」についてですが、学校と地域や、学校とコーディネーターの間には、

「壁はないものの距離があり、活動の進め方について悩んでいる状況がある」  
との御意見が複数ありました。

このことは、地域やコーディネーターからは、教職員の多忙な現状を見て、提案することで更に負担となってしまうのではないかと提案を躊躇してしまうケースや、学校としても地域へどこまでお願いしてよいか分からずためらってしまうケースなど、互いの思いやりから遠慮がなされているようでした。

今回、参加された一人のコーディネーターより

「用事がなくても学校へ行き、学校長などの管理職以外の教職員とも顔見知りとなり、困り事やニーズの把握に努めている」  
との活動内容の発表があったことから、他のコーディネーターも参考にしたいと前向

きな発言が聞かれました。

3点目としては、今回の意見交換会では、コーディネーターの活動内容や課題などを確認させていただきましたが、コーディネーター相互においても、このような機会は大変貴重で良い交流となったとの御意見がありました。

また、児童生徒数の減少は、白山ろく地域における共通の悩みであり、子供たちのためにも大勢での活動を経験させてあげたいと、複数校連携も構想として描いておられました。

コミュニティスクールの制度は教育環境の充実だけでなく、地域との協力関係が深まることで子供たちの郷土愛が育まれると同時に、地域に潜在する力の発掘や、子供たちの地域活動への参加によって、地域の活性化にも繋がります。

白山市は本制度におけるコーディネーターの全校配置が今年度完了したばかりで、これからが期待されるところでありますが、子供たちの豊かな成長を支えるため、学校と地域が密接な連携を図り、地域の力をどのように教育に使っていくのか、橋渡しをするコーディネーターの役割は大変重要であると意見交換会を通し認識いたしました。

地域の子供たちのために、地域は何ができるのかという視点で、互いの遠慮を無くし協働による学校運営が前進するよう、未来を担う子供たちの健やかな成長と白山市の発展のため、私たちも本制度の促進に共に取り組みたいと思います。

以上で、文教福祉常任委員会委員長の報告とさせていただきます。